

特 集

2015年1月19日 新春トップセミナー

開会挨拶

生産技術振興協会 理事長 伊東 一良

皆様、明けましておめでとうございます。生産技術振興協会の理事長を務めております、伊東一良と申します。本年もどうぞ、よろしくお願いたします。本日は、当協会主催の「トップマネージャーのための新春セミナー」に、このように多数の方々に、お出でいただきまして、まことにありがとうございます。

生産技術振興協会は1949年、昭和24年に発足という、非常に長い歴史を持っております。その間、機関誌「生産と技術」を66年間にわたり毎年4回発行してまいりました。主な内容としましては、大阪大学の先生方の最先端の技術を、広く紹介しております。そのために、多くの編集委員の先生方にお集まりいただき、企画・編集をしていただいております。それ以外に、いろいろなセミナー等を開催し、産業界と学会をつなぐ情報交換の場を提供しております。最近、我々が力を入れているのは、「フレンドシップサロン」という新しい企画でありまして、3回目となりました昨年の企画は、知的財産のあり方について、新しい考え方を含めて皆様にご紹介し、大変ご好評をいただいております。今年は光加工と、最近注目を集めています、レーザー光によります3Dプリンティングの技術を詳しく紹介しようと考えています。5月8日に、大阪商工会議所にて、開催する予定になっておりますので、ぜひご参加いただきますように、お願い申し上げます。

本日のセミナーは、大阪で長らくお仕事を続けておられます塩野義製薬様の、代表取締役社長、手代木功様にご講演いただきます。テーマは「大阪発の革新的新薬を世界中の皆様へ」であります。講演の後には、第2部としまして、パネルディスカッションを用意しております。パネルディスカッションで



理事長 伊東 一良氏

は、最近話題の大阪国家戦略特区での、医薬や医療に関する議論を、皆様と一緒に進めたいと思っております。その後に、恒例の情報交換の場も予定しておりますので、ぜひご利用いただきたいと存じます。

大阪という地は歴史的にも医薬、医学に関連の深い町であります。江戸時代には、清の国から漢方薬が入ってきたわけですが、それらは全て大阪の道修町に集まってから、全国に運ばれたということです。江戸時代にはオランダからも、新薬が入ってききましたが、これも長崎・出島から道修町を経て、全国に運ばれたそうです。また、大阪には、大阪大学の前身であります適塾から脈々と続く、医学・蘭学の歴史があります。一方、現在ではその大阪大学とその周辺の彩都で、最先端の医学・薬学の研究が進められています。大阪は食い倒れの街とよく言われますが、医薬、医療に関しても大変強い地という一面を持っているといえます。

その大阪の地で、本日は手代木様のご講演、パネルディスカッション、そして情報交換の場を予定しておりますので、皆様のネットワークづくりのためにも、ぜひご活用いただくことをお願いいたしまして、私の開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。